施設における備蓄用食品の対応例とローリングストック方式におけるゼリータイプ栄養食品の有用性

摂食嚥下機能が低下した人向けにローリングストック方式で、ゼリータイプ栄養食品やカップタイプの流動食を備蓄し、普段から活用している施設にその状況を伺った。

社会福祉法人セイワ　介護老人福祉施設みやうち
主査　管理栄養士　**田中 朱美** 先生

■ 当施設の備蓄用食品の状況

当施設に入居されている方の平均年齢は90歳に近く、要介護度が4以上の方がほとんどであり、嚥下困難者は入所されている方の半数に及んでいます。したがって備蓄用食品においては、硬いもの、常食形態のものを多く備蓄してもあまり実用的ではないのが現状です。すなわち当施設では、備蓄用食品は利用者さん、職員も含めて一般の普通食とゼリー食(特にゼリータイプ栄養食品)という、大きく二つに分類して備蓄しています。

■ ゼリータイプ栄養食品を備蓄に取り入れた理由

●安全・安心である

ゼリータイプ栄養食品は物性が安定しており、嚥下機能が低下した方から常食の方まで幅広く摂取できます。特に、日頃から使っているものを備蓄しているので非常時でも安心感が得られます。日頃ゼリー食を食べている方は、物性が変わってしまうと誤嚥、窒息リスクのある方が多く、いつも職員が同じように介助して召し上がっていただくことが、最も大切なことだと捉えています。また、職員にとっても日頃使い慣れている点は大きいです。

●調理を必要としない

調理を必要としない点は、災害発生当初にライフラインが全て断たれても提供が可能という大きな強みとなります。製品自体も賞味期限が8ヶ月とストックしやすく、キャップが付いているので飲みきれない場合は分けて提供できるので無駄になりません。

●栄養面でも優れている

少量で高エネルギー補給が可能でかつ栄養価が明白なので、利用者さんの栄養摂取状況が把握しやすく、さらに糖尿病の方などのエネルギー管理にも有用です。

その他、ストックしておくことで、日常においても急な食事の変更にも安心して対応できる、災害時は器に移さずスプーンもしくは直接経口摂取することで洗い物を減らせ、感染症リスクがある状況下でも衛生的に提供できる、といったメリットがあります。

■ 流動食はカップタイプも利用

流動食については、カップタイプの流動食も普段から使うようにしています。ゼリータイプ栄養食品と同様に味の種類が豊富で、経口摂取可能な方には飽きがこないように様々な味を提供しています。また、ゼリーやヨーグルト状のものが嚥下機能により摂取できない方は、こうした液体タイプの方が適している場合もあります。

▲ゼリータイプ栄養食品やカップタイプの流動食の保管場所。
一目で賞味期限が確認できるよう、外箱に賞味期限が明記されている。

■ 在庫管理

在庫管理についてはローリングストック方式を取り入れており、皆が目につくところに非常食を保管し、回転させています。

■ ローリングストック方式が適している

ローリングストック方式なら、わざわざ災害備蓄用の費用を捻出する必要がないので、結果的にはそれほど費用の負担はないことを実感しています。予算上、毎年備蓄品を特別に計上していくことが難しいですし、多額の費用が必要になってしまうので、限られた体制の中で取り組んでいくためには、ローリングストック方式が適していると思います。

編集・発行 ● 株式会社ジェフコーポレーション　〒105-0004 東京都港区新橋5-20-3 新橋STビル4F TEL:03-3578-0303 http://www.jeff.jp

2019.01.25000